

# 睡蓮鉢を用いた熱帯性スイレンの展示

西内良

## はじめに

これまで熱帯性スイレンは温室の植物として扱われることが多かったが、夏季には屋外で育てることができ、水面で涼し気に花を咲かせる様子は夏季の屋外園芸植物として大きな可能性を秘めている。また、写真撮影の被写体として人気が高いにも関わらず、温室のプールで栽培されていることが多いため、遠距離からしか撮影ができない。

そのため、一般家庭での栽培の見本を示すこと、手軽に写真撮影を行ってもらうこと、そしてこれまでは知られていなかった熱帯性スイレンのバリエーションの豊かさを紹介することを目的に、睡蓮鉢を用いて熱帯性スイレンの展示を行った。

## 展示品種

展示品種を表1に示す。品種の選定条件は①「睡蓮鉢栽培が容易」であることとし、更に②「花色、花型、葉模様の組み合わせを可能な限り示す」ことができる品種も展示に含めた。なお、①の条件を補足すると、3号鉢から4号鉢という小さな鉢への植え付けでよいこと、浮葉を広げる水面の面積が狭くてよいこと、昼夜の水温変化に耐えること、となる。また、②の条件で選択した品種群には、初心者にとっては栽培が難しいものが含まれているが、熱帯性スイレンのバリエーションの豊かさを紹介することが大きな目的の1つであるため、この度は展示した。熱帯スイレン温室の品種も含めて類似品種は展示していない。

## 展示場所と展示期間

熱帯スイレン温室東南側に位置する大テント前で展示を行った。7月下旬に、開花が始まった品種から展示し、その後順次展示品種数を増やしていった。9月中旬からは展示品種数が50品種となり、展示は10月3日まで行った。また、花色や花形、葉模様などの見どころ、品種群ごとの推奨栽培環境、そして初めて栽培する場合

でも容易に開花させることができる品種についての解説を掲示した(写真1)。

## 用土などの栽培環境

用土は以下の①および②を体積比3:1で混合したものを用いた。

- 1 肥料分無添加の芝目土(赤玉土細粒と同等品)
- 2 ピートモス(1Lあたり4gの粉状苦土石灰を加えたもの)

植え付けは7月上旬から8月上旬にかけて行った。5cm程度の長さで根が伸びた1芽を2号~2.5号ポットの底穴を塞いだものに定植した。肥料はマイガーデン粒状肥料(N-P-K-Mg = 10-18-7-0.6)を1g鉢底に配置した。なお、2号という小さなポットに植え付けることの狙いは、肥料を素早く吸収させ、初期成育の勢いをつけるとともに、程よい根鉢を早期に形成させることにある。その後、葉長およそ8cmの浮葉が4枚程度展開された時期に、3号~4号ポリポットの底穴を塞いだものへと鉢増した。これを水を満たした開口部直径44cm、深さ23cmのプラスチック製睡蓮鉢に沈めて展示した。一部の小さな品種については、開口部直径28cm、深さ20cmのプラスチック製鉢カバーの底穴を塞いだものを睡蓮鉢代わりに使用した。

上記条件では用土量や浮葉を展開する水面の面積が不足して生育が停滞し、開花が難しくなる品種が表1②に含まれている。これらについては、2号ポットから4号ポットへの鉢増し後、花芽を確認した段階で、5号ポリポットに更に鉢増しを行い、開口部直径50cm~60cm、深さ40cm~50cmの睡蓮鉢に沈めて栽培した。

展示場である大テント前は終日、直射日光が当たる環境である。すべて無遮光で栽培した(写真2)。肥料はプロミック草花用(N-P-K = 8-12-10)を用い、株の状態に合わせて約3週間毎に3号ポットでは1錠施肥。4号および5号ポットでは2錠施肥した。なお、各睡蓮鉢に週に1~2回程度補水し、花がらと古葉とりのメンテナンスを行った。

## 展示の経過と来園者の反応

当初の予定は7月下旬には50品種すべての一

番花の開花、そして8月中旬には見ごろを迎えさせ、見ごろを9月上旬までキープし、9月中旬に展示終了、というものであった。

実際の生育状況は、7月下旬の段階で初花の開花に至ったのが20品種であった。これ以外の30品種のうち、15品種は7月下旬の時点では植え付けが出来ておらず、残りの15品種は2号～2.5号ポットから3号ポット以上への鉢増し及び追肥が適期から2週間以上遅れ、根詰まりと肥料切れの状態になったことで、休眠に入りかけてしまった。こうなると状態を戻すのに更に2週間程度要することも珍しくなく、展示に大きな支障となる。

前項にて、3号ポット以上に鉢増し後はプロミック草花用を3週間ごとに追肥すると先述した。また、表1①の品種の中には最終的に3号鉢での栽培でも9月中旬まで根詰まりしない品種が含まれることから、最初から3号ポット以上に植え付けすれば根詰まりの心配もなく、追肥も3週間の間隔でよいようにも思える。この点について補足する。熱帯性スイレンはある程度根鉢が形成されると花芽を形成し始め、一度この状態になるとその後鉢増しをして根鉢を緩めても「栄養成長が旺盛となることで花芽形成が止まる」ということがない（肥料切れや根詰まりを起こしたり、著しく根を切る場合は、この限りでない）。そのため、最初の植え付けを少量の肥料を用いて2号ポットで行うことで、後に鉢増しの手間がかかるものの、早期に根鉢が形成されることに起因する早期開花が可能となる。この度は展示用株の育苗開始が遅れていたことから、上記の手法を採った。しかしその後、3号鉢以上への鉢増し作業についても遅れ、生育状態を戻すための時間が必要となり、多くの品種で予定よりも開花が遅れるという結果になった。

最終的に50品種すべてを咲き揃わせ、展示会場が最も華やかになったのは、緊急事態宣言が発令され休園中であった9月中旬であった。入園者に観賞してもらえたのは7月下旬～8月下旬（この時点では約30品種を展示）までと、10月2日～3日であり、展示場が見ごろの時期に入園者に観賞してもらうことはできなかった。当初計画していたスケジュールで展示を行えなかった理由は、育苗作業開始が遅すぎたことに

尽きる。今回、保存していた塊茎の芽出しを開始したのが5月下旬で、植え付け開始は7月上旬であった。しかし、計画していたスケジュールで展示を行うためには、4月下旬ごろに塊茎の芽出しを開始、6月上旬から2号～2.5号鉢に植え付けを行い、7月上旬に展示鉢のサイズに鉢増しというスケジュールが必要であると考えられた。

入園者には見ごろの時期に観賞してもらえなかったものの、身近な距離で展示した熱帯性スイレンは被写体として好評で、展示場は日向にも関わらず何分も撮影を続ける方がいた。また、手入れの際に声を掛けられることが多く、ここまでのバリエーションがあることを初めて知ったという声や、写真の撮り方についての質問、苗の入手方法、栽培管理に関する質問、および講習会開催の希望もいただいた。これらのことから、入園者の興味・関心を引く新規性のある展示としての効果はあったと考えられた。

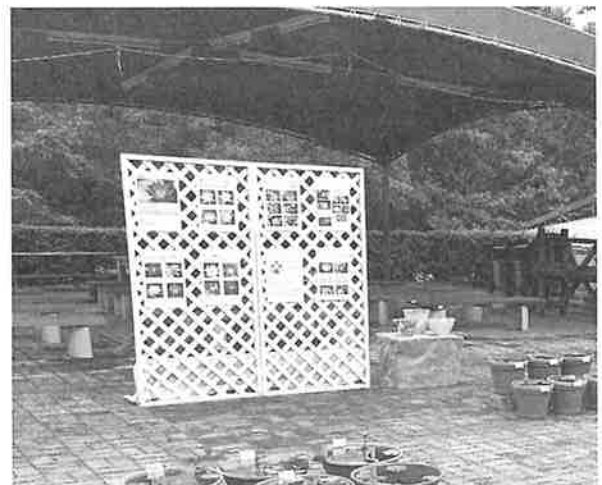


写真1 見どころや栽培の解説掲示



写真2 無遮光環境での栽培風景

表1 展示品種

①種運鉢栽培が容易な品種 (25種)	①以外で花色、花形、葉模様の組合せに独自性がある品種 (25種)	熱帯スイレン温室と重複するが育てやすい品種
ブリンク ティナ プロイデン リンジー・ウッズ マミヤオ キー・ラルゴ ジャニス ドリス・ホルト イノセンス イスラモラダ スター・ホワイト アンコーナス ヒラリー エクスカリバー オスタラ キャンディ・レイン ムーン・リバー フローズン ミロク ミゾレ ウタカタ シズク ハク2 オチョボ ジョナサン	トロピック・サンセット エンチャントメント マルモラータ アン・エメット コーラル・スカイ カーラズ・サンシャイン ブルー・アスター チャーリーズ・プライド フィン・オー・ヘイガン エルシー ジューン・アリソン チューラーブ セルレア ウィリアム・ストーン アリス・トリッカー オーキッド・スター アレクシス マーク・プルン リーガル ミッドナイト・カプリス イーサリアル オーバージョイド スカイ・オブ・アワジ サマー・レイン ヴァンティン	ドーベン セントルイスゴールド ムラサキシキブ コロラタ コロラタ・アルバ
その他、筆者の交配種で、流通品種にはない特徴をもつ株も展示した		